



環境を考える企業として、自分たちのまちに貢献したいと思っています。

仙台市地下鉄東西線卸町駅のほど近くにあるサイト工業株式会社は、住宅から道路、公園づくりなどを手がける総合建設会社です。工事現場での安全・安心を確保するために、日ごろから整理整頓、ごみの分別などを徹底している企業として、地域のまち美化にも平成14年から仙台まち美化サポーターとして精力的に取り組んでいます。その様子を伺いました。

「おはようございます」の声が行き交う朝は、気持ちがいいです。

— アレマ活動を始めたのは、いつごろですか。

14年ほど前になります。当初は宮城野区に社屋がありましたので、そちらで実施していましたが、2年前に宮城野区から若林区卸町に移転してまいりました。それからは地下鉄の卸町駅周辺を含む半径150mほどの範囲を月に1回、第3火曜日の朝7時45分から45分かけて、その日、会社にいる社員でごみ拾いを行っています。毎回15人くらいで実施しています。

— アレマ活動を始めたきっかけは、どんなことだったのですか。

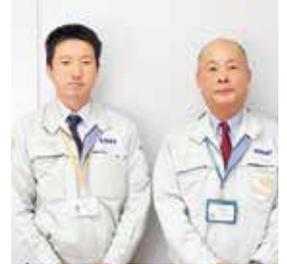
直接のきっかけは、仙台市の主催する会合に参加したときに、環境局の方から「自分の会社周辺のポイ捨てごみを拾って、自分の地域をきれいにする活動をぜひ皆さんの会社でもやってみませんか」という情報提供があったからだと思っています。ごみを拾う活動なら、地域に貢献することにもつながりますし、社員の環境に対する意識向上にもなると社長が考えたようです。

— なるほど。では、アレマ活動を続けていて、気がついたことなどはありますか。

卸町駅周辺には、タバコの吸い殻が多いですし、広い道路の中央分離帯には、走行中の自動車の窓から投げ入れられたと思われる、コンビニ袋に入ったごみが結構落ちています。私たちがこうしてごみを拾う活動を続けること、そして、その姿を見ていただくことが少しでもポイ捨ての抑止力になればと思うのですが、なかなか難しいものですね。

— では、アレマ活動を続けていて、どんなときにやりがいを感じますか。

すれ違う方が「おはようございます」とか、「ご苦労さまです」と声をかけてくれるんです。それがとてもうれしいですね。あとは、みんなでごみを集約して、その量を確認したとき、達成感を感じます。活動の都度、集合写真も撮っているんですよ。また、ごみ拾い活動をした日の朝礼は、心なしか、みんなの声のハリが良くなって、活気があるような気がします(笑)。



取締役副社長

齋藤 法幸さん
宮城県出身(写真 左)

安全環境部 部長

櫻田 雄二さん
岩手県出身(写真 右)

お二人の趣味は海釣り。一緒に楽しむこともしばしばあるそうです。



会社の周りの道路は、ごみはもちろん落ち葉もなくいつもきれいです。

一緒にごみ拾いをしてくれる仲間を増やしたい。

— 御社のアレマ活動の特徴や、何か工夫をしていることがあったら教えてください。

これは特徴や工夫ということではないのかもしれませんが、土木部門もあり雪が降ると除雪もしていることから雪が降ったときには融雪剤をまいて、皆さんが少しでも歩きやすくなるようにしています。また、日頃から社長の方針で家族も含め地域の環境活動にも積極的に参加するように推奨されています。環境について考えるということ、会社でも家庭でも社員が実践している点が、私たちのごみ拾い活動の特徴と言えるかもしれません。

— これから、アレマ活動の中で「やってみたい」と思っていることがあったら教えてください。

これまでもやってきましたが、道ゆく人々への「朝のあいさつ」を続けていきたいです。案外、あいさつを返してくださる方が多いんですよ。また、ここ卸町は、会社が多いこともあって、企業単位でも、商工会でもごみ拾い活動を活発に行っているんです。その輪をもっと広げたいと思っていて、「私たちと一緒に、ごみ拾いの活動をしませんか」と呼びかけたいのですが、そのためにチラシをつくって渡しても、それをポイ捨てされてしまうと本末転倒になります。これもなかなか難しいですが、良い方法を見つけて、仲間を増やしていきたいと思っています。

【サイト工業(株)のごみ拾いスタイル】

会社のユニフォームに安全ベストを着用し、志気を高めています。

交通事故に遭わないように、仕事でも使う反射材がついた安全ベストを全員着用しています。また、小雨が降っても活動できるように、雨ガッパの代わりにジャンパー(写真上部左)をつくりました。手にはごみ袋と火ばさみ。これが、サイト工業のごみ拾いスタイルです。

